



【 道徳の授業をしました（校内研修会） 】

- 昨日、私は3年の子供たちと道徳の授業をしました。自作資料で、「友情・信頼」について考える学習です。周りには、教職員が参観していました。実は、私は子供と一緒にまともに授業をするのは、約2年5か月ぶりです。
- このような状況でしたが、私が授業をするには、二つの意味がありました。大きな意味は、**道徳科の授業をどうすれば充実したものになるか、教職員に考えてもらう意味**です。道徳はなかなか難しい教科です。それは、子供が道徳の授業で何を学んだかはっきりしない場合が多いからです。そこで、子供が「〇〇なことが大切だと分かったよ。」「●●な行為ができるには、△△な心があればいいんだな。」と、**子供が学んだことを自覚するような授業**を提案しました。今の私は授業実践者ではありませんが、これまでに培ってきたことを、後輩教員に伝えたいという思いでやりました。この授業を契機に、教職員がよりよい道徳の授業を行うよう励んでほしいと願っています。
- もう一つは、道徳の授業をやるからには、**子供たちにしっかりとした学びを保障する**意味です。貴重な時間を、私が1時間もらったわけですので、子供たちが「〇〇なことが大切だと分かったよ。」「●●な行為ができるには、△△な心があればいいんだな。」と納得しなければ、授業の意味がなくなります。
- 実際、私の思うようにいかなかった面はあります。子供たちに申し訳ないという思いがあります。一方、子供たちは真剣に聴いて、考え、発表していたことは、素晴らしいと思います。私たち教職員は、子供が主体・主役となる授業の他にも、子供が学んだ状態になる授業づくりに向けて、今後とも自己研鑽を積んでいきたいと思います。子供たち、ありがとう。

